

7月14日
ツーリングを安全に楽しむために
野上峠で二輪車に交通安全を呼びかけ



小旗を手渡し呼びかけ

弟子屈警察署と斜里警察署による二輪車などに対する交通安全啓発が7月14日、野上峠の国道沿いで実施されました。観光シーズンを迎え、国道391号は二輪車の交通量が増加すること、平成29年に二輪車が対向車と衝突する死亡事故が野上峠で発生したことから、ライダーに交通安全を呼びかけることを目的に実施されています。両署や両町の交通安全団体から21人が参加し、「安全運転をお願いします」などと声を掛けながら交通安全と書かれた小旗などを手渡し、交通事故防止を呼び掛けました。

7月14日
地域の役に立ちたい
(株)多田塗装工業が社会貢献



安全に通えるように

(株)多田塗装工業(多田征人代表取締役)の皆さんが、7月14日、川湯小学校でロードマーク設置工事を行いました。同学校の敷地の中の道路には片側しか歩道がなく、児童が道路を横断せざるを得なかったことから、ラインを引くことで児童がより安心して通れるようにと、社会貢献活動の一環として行ったものです。当日は3人が参加し、丁寧に作業を行いました。また同日、昨年に引き続き川湯支所駐車場でもロードマーク設置工事を行いました。優先駐車場のマークが塗装され、障がいのある方も安全に利用しやすくなりました。

7月25日
平和の尊さを忘れない
戦没者追悼式で誓いを新たに



献花する参列者

令和4年度弟子屈町戦没者追悼式が7月25日、町社会老人福祉センター大集会室で行われました。毎年この日に、遺族や関係者らが集まり行われていて、約40人が参列し、一人ひとりが151人の戦争犠牲者に献花と黙とうを捧げました。徳永町長は「多くの尊い犠牲の上に平和と豊かな社会が築かれた。恒久の平和を願い、より努力を重ねて次世代に引き継ぎたい」と式辞を述べました。

7月21日
普段とは違う貴重な体験
和琴キャンプ場で宿泊研修 | 美留和小学校



じっくり魚を待つ児童たち

美留和小学校(佐藤義行校長)では、7月21日に和琴キャンプ場で宿泊研修を実施しました。同学校では隔年で宿泊研修を実施していて、1年生から6年生までの全児童が参加しています。今回は6人の児童が参加し、自分たちでテントを組み立てたり、炭おこしをしてご飯を作ったりなど、児童たちはいつもはできない体験にも一生懸命挑戦していました。体験活動として「魚釣り、ザリガニ釣り体験」も行われ、ウグイやザリガニを釣り上げるなど、自然体験も満喫していました。

7月30日
第1展望台のレストハウスが改修
摩周湖カムイテラスのオープンをお祝い



屋上テラスへ記念撮影も

摩周湖第1展望台のレストハウスが「摩周湖カムイテラス」への改修を終え、そのリニューアルオープニングセレモニーが7月30日に開催されました。同施設を運営する(株)弟子屈町振興公社(代表取締役社長・吉備津民夫副町長)の主催で、昨年3月に締結された阿寒摩周国立公園活性化に向けた摩周エリアの磨き上げ連携協定の締結団体や、釧根地区と町の地域団体などから約40人が出席。同協定の締結者の皆さんがテープカットを行い、リニューアルを祝いました。同公社代表取締役の吉備津副町長は「観光産業の発展と、更なるサービス向上に努めたい」とあいさつをしました。

7月28日
ふるさと納税も好調
摩周メロン豊穰祭で出荷開始を祝う



出荷を祝いメロンカット

摩周メロン生産組合(藤田重太郎組合長)の「豊穰祭」が7月28日、町農産物集出荷センターで行われました。豊穰祭では、川口覚摩周湖農業協同組合長と藤原将男弟子屈郵便局長、徳永町長がメロンカットを行い、出荷開始を祝いました。摩周メロンは同組合の7戸の農家が生産。同センターと摩周湖農協、道の駅「摩周温泉」、郵便局の「ふるさと小包」、町のふるさと納税の返礼品だけの取り扱いで市場にはほとんど出回らないため、幻のメロンと呼ばれています。6月からの天候不順はありましたが、例年通り糖度は十分。1万9千玉が順次出荷されます。

6月27日
持続可能な地域づくり
1市3町でゼロカーボンパークに登録



脱炭素に向けて

環境省釧路自然環境事務所が主催する阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトシンポジウムが6月27日、摩周観光文化センターで開催されました。これまでの阿寒摩周国立公園の取り組みを振り返り、持続可能な地域づくりについてパネルディスカッションも行われました。また、釧路市に加えて、当町、美幌町、足寄町によるゼロカーボンパーク宣言も行われ、国立公園において自然環境に配慮した脱炭素の取り組みなどを実施するゼロカーボンパークに登録されました。この取り組みを推進するため、町では、地熱などによる再生可能エネルギーの更なる活用などに取り組んでいきます。

カメラスケッチ
広報マンが行く!!
このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにつけかけます。お気軽にご連絡ください。
まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (課直通)

7月1日~30日
みんなで住みよいまちづくりを
社会を明るくする運動を実施



夏まつり会場で啓発品を配布

保護司会や弟子屈更生保護女性会などで組織する弟子屈町社会を明るくする運動推進委員会(会長・徳永町長)による社会を明るくする運動が、7月1日~30日に実施されました。今年は、役場庁舎に懸垂幕を掲示したほか、11日に摩周湖農協、フクハラ、道の駅「摩周温泉」、16日に「摩周の里夏まつり」の会場で街頭啓発活動を行い、メモ帳やボールペンなどの啓発品を配布し、運動を推進しました。

6月29日
町の事業状況も報告
水のカムイ観光圏協議会総会が開催



徳永町長の開会あいさつ

水のカムイ観光圏協議会(会長・蝦名大也釧路市長)の総会が6月29日、川湯観光ホテルで開催されました。水のカムイ観光圏とは、釧路湿原、阿寒、摩周をそれぞれの圏域とし、釧路市と当町の観光関連団体で構成され、広域的な連携を図りながら、観光地域づくりを進めています。総会には約30人が出席し、海外向けの動画作成や、広告プロモーションの実施などについて事業報告が行われました。摩周地域の活動状況については、「弟子屈町が熱い」と題し、秋山観光商工課長より現在の事業状況について説明が行われました。

7月13日
悲惨な事故を防ごう
摩周観光文化センター前で旗の波啓発運動



旗を掲げて交通安全を呼びかけ

交通安全意識の向上を目的とした旗の波街頭啓発運動が、弟子屈町交通安全運動推進協議会と弟子屈町交通安全協会の共催で、7月13日、摩周観光文化センター前で行われました。この運動は夏の交通安全運動期間中に毎年実施されているもので、同協議会の構成団体、関係機関から約90人が参加。沿道に並び、交通安全を呼びかける旗を掲げて交通事故防止を呼びかけたほか、弟子屈警察署の協力の下、通行車両のドライバーに地元のお菓子を含めた啓発品の配布を行いました。

7月11日
火の大切さやエネルギーを学ぶ
LPガス協会釧路支部が弟子屈小学校で講座



火おこしに挑戦

北海道LPガス協会釧路支部(平山晴章支部長)の皆さんが7月11日、弟子屈小学校(大西展史校長)5年生に「ファイヤー探検記『炎の出前授業』」を行いました。人間と火の関わりや、エネルギーと環境問題について理解を深めてもらおうと、同支部が釧路管内の小学校で行っているもの。同支部員のほか同支部弟子屈分会の会員など10人が来校。人間が火と関わってきた歴史や、炎とエネルギーについて説明しました。その後、児童は火おこしに挑戦し、火のある生活のありがたみを実感していました。